

奈良市立一条高等学校附属中学校三年

私は、小川のせせらぎや波の音、滝の音を聴くと、何だか心が落ち着く。

「1/f ゆらぎ」は、自然音の中に多く含まれる「規則性」と「不規則性」がほどよくミックスされた波形のことをいい、体験者は心地よく快適な気分になるということである。そして「1/f ゆらぎ」は、心臓の鼓動や呼吸などの人間の生体リズムと呼応し合うものであるため、私たちが心地よさや快適さを感じることができると、言われていることが分かった。

私の住んでいる地域には、奈良市でも有名な佐保川がある。小学校、中学校をこの佐保川に沿って登下校してきている私にとって親しみ

のある川である。毎年春になると川沿いの桜並木が人々を和ませている。夏には、鹿が涼を求め、足を浸しにやってくる。私も大好きな風景である。また、その昔、佐保川はホタルの名所として「南都八景」の一つに数えられた場所であり、昔から人々に親しまれてきた川である。この佐保川の風景に、私は幼い頃から癒され育ってきた。

しかし、その佐保川が、私が生まれる前に台風の影響であふれ、私の住む地域でも浸水被害が起こったと聞いている。現在は浸水被害が解消されるための工事が行われ、雨水バイパス管が整備された。それによつて、私たちは安心、安全に暮らすことができている。

近年では、日本各地で大きな地震が起こっており、近畿も南海トラフ地震がいつ起こってもおかしくないと言われている。いつ災害が起こるかかわらないのである。川の氾濫、津波などの災害により、「水」が「癒し」とはかけ離れたものに変貌し、状況によつては「脅威」にも

なりうるものなのである。水や波に恐怖を抱いている方々が、いることも決して見過ごしてはいけない、忘れてはいけないことだと思う。もしからしたら、私もそのような状況に見舞われるかもしれないのだ。

そして、当たり前前に蛇口から出てくる水、当たり前前に排水で流れる水、それは、災害が起これると、当たり前ではなくなるのである。

何においても「水」は生命にとって欠かせないものである。人間だけでなく、生きとし生けるもの全てにとって、生きるためになくてはならないのが「水」である。

それは、みんな知っているはず、水質汚染や環境汚染に気づいているはず。私も、小学校高学年の時に、佐保川の水生生物の様子を観察し、環境の変化と環境保全の大切さについて学んでいる。

では、なぜわかっていながらも水問題が出てくるのか。それは、「水」に対する意識が低いから、または、水問題に対して、一人一人自分

ごととして考えていないからではないだろうか。

今の日本の川や海には水質汚染や海洋ごみなどの問題がある。この問題の原因としては生活排水や不法投棄などで、これは人間の行動が主な原因である。このような問題が起きると、生態系にも影響を及ぼすことになる。このままでは、「癒し」の景色が色あせてしまうかもしれない。少しずつでもできることから解消したい。だから、私も皿を洗う時には、洗剤の量を加減したり、油をふき取ってから皿を洗ったりなど、排水にも気を配ることを意識するようになり、自分ができることから始めている。

今年も、佐保川の桜並木はとても美しい。また、涼をとる鹿に会えるだろうか。ゆくゆくは、ホタルが飛び交う佐保川にし、「癒し」の風景を、未来に受け継いでいきたい。